



2024年3月14日

ショック療法下のアルゼンチン経済の現況

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員 森川 央

アルゼンチンで2023年12月にミレイ政権が発足してから3ヶ月が経過した、就任後、ミレイ大統領は実勢レートにサヤ寄せするために直ちにペソの公式レートを54%切り下げた(図1)。為替の大幅な調整は直ちにインフレ率に反映され、消費者物価上昇率(前年比)は11月の160.9%から12月211.4%、2024年1月254.2%と上昇を続けている。

一方、インフレと賃金のスパイラルを断ち切るため緊縮策も実施された。社会保障支出と賃金のインフレスライドを縮小させたため、消費は急減し、生産も低下している。鉱工業生産指数をみると、9-11月の平均に比べ、12-1月平均は4.0%下落している(図2)。そして、12月の経済活動指数(速報値)は前月比0.5%低下し、2023年の実質GDPは▲4.5%となった模様である。

図1 アルゼンチンペソの対ドルレート

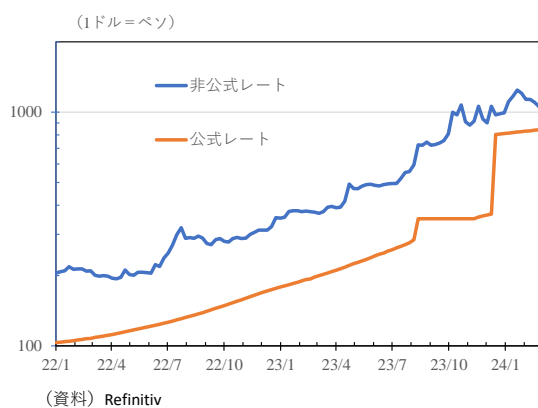
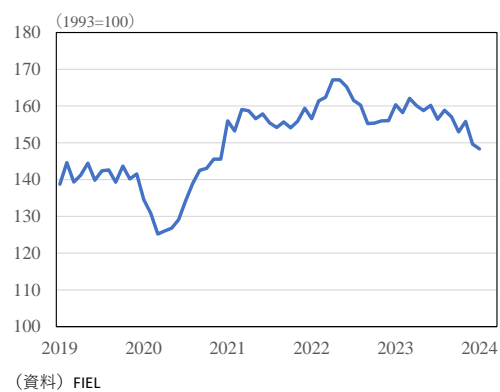


図2 鉱工業生産指数



厳しい経済状況だが、足元までの情勢はミレイ大統領にとっては織り込み済みであろう。副作用はあってもインフレ率は限界的には歯止めがかかりつつある。昨年12月に前月比25.5%となっていた消費者物価は、2月(速報)は13.2%となった。1月は同20.6%だった。現地のエコノミストらは、8月には前月比の上昇率が7%程度に低下すると予測している。

だが、その時点の年間インフレ率(前年比)は300%を超えていると思われる。4倍
[ここに入力]

の物価高で賃金・年金が固定されていれば、到底生活していけないだろう。同国には元々「最低限必要な栄養を満たすことのできない人々が31%、基本的ニーズを満たせぬ人々が19%と、併せて国民の半数が貧困状態にある」¹からである。

景気回復のためには、通貨安による輸出増に活路を見出したいところだが、アルゼンチンの輸出はその7割以上を大豆やトウモロコシなどの農産物が占めるため、世界経済と気候変動に大きく左右される。実際、10-12月の輸出額は前年比▲26%となっており、第4四半期としては2020年来の低さであった。このままでは輸出にも多くを期待できない。

過去を振り返ると、同国では右派政権も左派政権も無責任な経済政策を繰り返してきた。すなわち同国の宿痾は「根深い政治的縁故主義、すなわち政治家たちが集票目的で財政の裏付けなしに補助金や年金、公職、公共事業をばらまく利益誘導政策にあることも否定できない。＜中略＞際限なく膨らむ財政赤字を補填するために、ポピュリスト政治家が中央銀行を国債発行と購入、そして紙幣増刷マシンとして利用し、インフレと債務危機を繰り返し引き起こしてきた」²のである。

従って緊縮政策は同国が避けて通れない政策であり、現在のミレイ政権の取り組みは評価できる。しかし、緊縮だけで同国経済が抱える問題を解決できるわけでもない。国民の半数に及ぶ貧困層の生活の保護は、政府の責任である。輸出振興も同じだ。アルゼンチンには豊富なりチウムが存在するが、その開発と産業化には政府の関与が不可欠だろう。政府の関与を極力排することを是とする19世紀的な自由放任主義を信奉するミレイ政権には、緊縮後の次の一手が欠けているように思える。

以上

Copyright 2024 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8階

電話：03-3510-0882 (代)

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <https://www.iima.or.jp>

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

¹ 狐崎知己『『リバタリアン』大統領ミレイと、アルゼンチンのゆくえ』岩波書店「世界」2024年3月号、p120

² 前掲書 p119

[ここに入力]